

Masimo Corp. 対 Apple Inc.: 2025年11月 評決の包括的分析とウェアラブルヘルス技術 市場への戦略的影響

Gemini

1. エグゼクティブサマリー: 技術と法の収束点

2025年11月14日、カリフォルニア州中部地区連邦地方裁判所の陪審団は、Apple Inc.に対し、医療技術企業Masimo Corp.への特許侵害賠償として6億3,400万ドル（約980億円）の支払いを命じる評決を下しました¹。この評決は、単なる二社間の知的財産権紛争の結末にとどまらず、消費者向けエレクトロニクスと医療グレードの患者モニタリング技術の境界線が消失しつつある現状を法的に追認した歴史的な転換点として位置づけられます。

陪審団は、Apple Watch（具体的にはSeries 6以降のモデル）に搭載された「ワークアウトモード」および「心拍数通知機能」が、Masimoの保有する米国特許第10,433,776号（以下、「776特許」）を侵害していると認定しました⁴。この特許は、血中酸素飽和度（SpO2）測定における信号処理技術、特に体動や低灌流（血流が弱い状態）時におけるノイズ除去に関する核心的な技術をカバーしています。

本レポートでは、この評決に至るまでの10年以上に及ぶ法的・技術的攻防を詳細に分析し、Appleが採用した「回避策（ワークアラウンド）」の技術的妥当性、国際貿易委員会（ITC）による輸入禁止措置との交錯、そしてMasimo内部で発生した劇的な経営体制の変革（創業者Joe Kiani氏の退任と新CEO Katie Szyman氏の就任）が今後の訴訟戦略に与える影響について包括的に論じます。さらに、この判決がSamsung、Google、Garminといった競合他社の製品開発やライセンス戦略、ひいてはウェアラブルヘルスケア市場全体の未来にどのような地殻変動をもたらすかを、専門的な視点から詳解します。

2. 2025年11月評決の法医学的分析

2.1 陪審団の判断と損害賠償額の算定ロジック

陪審団が下した6億3,400万ドルという賠償額は、Masimo側が求めていたロイヤルティの範囲(6億3,400万ドル～7億4,900万ドル)の下限と完全に一致しており、Apple側の主張(300万ドル～600万ドル)を全面的に退ける結果となりました²。この金額は、2020年のApple Watch Series 6発売から2022年の特許満了までの間に販売された約4,300万台のデバイスに対する侵害の対価として算定されています¹。

アナリストの試算によれば、これは侵害デバイス1台あたり約14.74ドルのロイヤルティに相当します⁷。通信分野における標準必須特許(SEP)のライセンス料率が通常数ドル程度であることを考慮すると、この金額は異例の高水準です。これは、陪審団が「正確なヘルスマニタリング機能」をApple Watchの販売動機における決定的な付加価値であると認定したことを示唆しています。Appleは、同機能が単なる付加的な「ウェルネス」機能に過ぎないと主張してきましたが、陪審団はその主張を退け、Masimoの技術がApple Watchの商業的成功の中核を成していると判断したのです。

2.2 「期限切れ特許」の法的効力と遡及的責任

本裁判においてAppleの防衛戦略の主軸の一つとなったのが、「当該特許は2022年に既に失効しており、数十年前の古い技術に基づいている」という主張でした⁸。一般消費者の感覚では、期限切れの特許に基づいて巨額の賠償を命じられることは直感に反するよう見えるかもしれません。しかし、米国特許法(35 U.S.C. § 286)の下では、特許権者は特許の有効期間中に発生した侵害行為に対して、訴訟提起から過去6年間に遡って損害賠償を請求する権利を有しています¹⁰。

この法的メカニズムは、侵害者が特許の満了を待って責任を逃れる「逃げ得」を許さないために存在します。Masimoの勝訴は、知財ポートフォリオの資産価値が、特許権の消滅後も時効期間内であれば維持されることを改めて証明しました。これは、技術の陳腐化が早いテック業界において、過去の侵害行為に対する潜在的な負債(Liability)が、企業の財務諸表における隠れたリスク要因となり得ることを示しています。特に、長期間にわたって係争が続く場合、最終的な判決が出る頃には特許が切れているケースは珍しくありませんが、その間の販売台数が膨大であればあるほど、累積する賠償リスクは幾何級数的に増大します。

2.3 「患者モニター(Patient Monitor)」の定義を巡る攻防

本裁判の最大の争点であり、かつ最も戦略的な意味を持つのが、クレーム解釈(Claim Construction)における「患者モニター」の定義でした。Masimoの'776特許は、その請求項において

技術の適用対象を「患者モニター」として記述しています。

Appleの法務チーム(WilmerHale)は、「患者モニター」とは、重大な医療イベントを見逃さないように設計された「臨床用の連続監視装置」を指すと定義づけ、Apple Watchのように断続的にバックグラウンド測定を行い、10分間の安静状態などを条件とする民生用デバイスはこれに該当しないと主張しました⁵。Apple Watchは医療機器としてのFDA承認(特定の機能を除く)を受けておらず、あくまで「ウェルネス」デバイスであるという建前を崩しませんでした。

これに対し、Masimoの法務チーム(Knobbe Martens)は、Apple自身のマーケティング資料や内部文書を証拠として突きつけました。その中には、Apple Watchを「世界で最も使用されている心拍数モニター」と称する記述や、安静時の高心拍数検出において95%の感度を持つとする技術資料が含まれていました⁵。Masimoは、「医師や患者が実際に医療目的で利用している実態」と「Apple自身が謳う高い精度」を根拠に、Apple Watchは実質的に特許法上の「患者モニター」の要件を満たしていると主張し、陪審団はこの解釈を全面的に支持しました。

この認定は、今後のヘルスケア・ウェアラブル市場全体に深刻な波紋を広げる可能性があります。これまでテック企業は「診断ではなく情報提供」「医療機器ではない」という免責条項(ディスクレーマー)を盾に、医療機器規制の網を潜り抜けつつ、高度な健康管理機能を消費者にアピールしてきました。しかし、今回の評決によって、機能的に医療レベルのモニタリングを行っている場合、特許法上は「医療機器」として扱われ、その分野の既存特許網に抵触するリスクが明確化されました。

3. 紛争の起源と技術的深層:「Sherlocking」の影

3.1 2013年の接触と「トロイの木馬」

この紛争の根源は、Apple Watchがまだ世に出る前の2013年にまで遡ります。当時、Appleはウェアラブル市場への参入を計画しており、その差別化要因としてヘルスケア機能に注目していました。Masimoの創業者であるJoe Kiani氏は、Appleから提携の打診を受け、クパチーノのApple本社で会議を行いました¹³。

Kiani氏の証言および訴訟資料によれば、これらの会議は提携に向けたデューデリジェンス(適正評価)の名目で行われましたが、実際にはAppleがMasimoの技術的ノウハウを吸い上げるための「面接」であったとされています。その後間もなく、AppleはMasimoの最高医療責任者(CMO)であったMichael O'Reilly氏や、関連会社Cercacorの最高技術責任者であったMarcelo Lamego氏といったキーマンを高額な報酬で引き抜きました¹³。

この一連の動きは、シリコンバレーで「Sherlocking(シャーロッキング)」と呼ばれる現象、すなわちプ

ラットフォーマーがサードパーティの革新的な技術やアプリを模倣し、自社製品に取り込んでしまう行為の典型例としてMasimo側により描かれました。裁判においてMasimoは、Appleが正当なライセンス料を支払う代わりに、人材を引き抜くことで技術移転を行い、「効率的侵害(Efficient Infringement)」—すなわち、ライセンス料を払うよりも、侵害して訴訟費用を払う方が安くつくという冷徹な計算—を実行したと非難しました。

3.2 パルスオキシメトリーの技術的特異性: Masimo SET®の本質

なぜAppleはMasimoの技術を必要としたのでしょうか。その答えは、手首という測定部位の難易度にあります。

パルスオキシメトリーは、赤色光と赤外線を皮膚に照射し、酸化ヘモグロビンと還元ヘモグロビンの吸光度の差を利用して血中酸素飽和度(SpO2)を算出します。病院で一般的に使用される指先クリップ型のセンサー(透過型)とは異なり、スマートウォッチは手首の表面から光を当てて反射光を測定する「反射型」センサーを使用します。反射型は信号が微弱であり、さらに腕の動き(体動)や血流の低下(低灌流)によって激しいノイズが発生します。

Masimoが開発した**SET®(Signal Extraction Technology)**は、このノイズ問題に対する革命的なソリューションでした。従来のパルスオキシメーターがノイズ混入時に測定を停止するか誤った値を表示していたのに対し、Masimo SET®は適応フィルタリングと並列信号処理エンジンを用いて、静脈血の移動によるノイズ(体動アーチファクト)と動脈血の真の信号を分離することに成功しました⁴。

Apple Watchがフィットネスや睡眠追跡といった「動きのある」シナリオで正確なSpO2測定を提供するためには、この種の信号分離技術が不可欠でした。今回侵害が認定された'776特許を含め、Masimoの特許群は、複数のLEDとフォトダイオードの配置、および受信した光信号からノイズを除去して生理学的パラメータを抽出するアルゴリズムの核心部分をカバーしています。陪審団の判断は、Appleが独自にこの問題を解決したのではなく、Masimoの発明を利用したという事実認定に他なりません。

4. 並行して進むITC(国際貿易委員会)での攻防

地方裁判所での評決が「過去の損害に対する金銭的補償」を扱う一方で、ワシントンD.C.の国際貿易委員会(ITC)では、「将来の製品販売」を左右するより致命的な戦いが繰り広げられています。

4.1 2023年の排除命令 (USITC Investigation No. 337-TA-1276)

2023年10月、ITCはApple Watch Series 9およびUltra 2が、Masimoの別の特許(米国特許第10,912,502号および第10,945,648号)を侵害していると認定しました¹⁷。これに基づき、ITCは限定排除命令 (Limited Exclusion Order) を発令し、該当製品の米国への輸入を禁止しました。

この決定は、Appleにとって極めて深刻な事態でした。バイデン政権による拒否権発動も行われず、2023年12月には一時的にAppleのオンラインストアおよび直営店から最新のApple Watchが姿を消すという前代未聞の事態が発生しました¹⁹。その後、連邦巡回区控訴裁判所への提訴期間中に一時的な執行停止 (Stay) が認められましたが、2024年1月18日にこの停止措置が解除され、輸入禁止が確定しました³。

4.2 2025年8月の「回避策 (Workaround)」とCBPの承認

輸入禁止という最悪のシナリオを回避するため、Appleは技術的な「抜け道」を模索しました。2025年8月、Appleは米国税関・国境警備局 (CBP) に対し、再設計されたApple Watchの承認を求めました。

この回避策の核心は、「処理のオフロード」です。従来のApple Watchは、デバイス内部のプロセッサでSpO2の計算を行っていました。新しい設計では、Watchはセンサーデータの収集のみを行い、特許侵害の争点となっている複雑な計算アルゴリズムやデータ解析を、ペアリングされたiPhone上の「ヘルスケア」アプリ内で行うように変更しました (watchOS 11.6.1およびiOS 18.6.1へのアップデートを含む)¹。

Appleの論理は、「輸入されるApple Watch単体では、特許請求項にある『計算・処理』のステップを実行しないため、侵害物品には該当しない」というものです。CBPはこの主張を認め、修正されたApple Watchの輸入再開を許可しました。これにより、2025年後半には血中酸素機能を持つApple Watchが再び米国市場で販売されるようになりましたが、ユーザーは手首で測定を開始した後、結果を見るためにiPhoneを取り出さなければならないという、UX(ユーザー体験)上の後退を強いられました。

4.3 新たなる火種: 2025年11月のITC調査再開

Masimoはこの回避策に対して即座に反撃しました。CBPの決定はMasimoへの十分な通知なしに行われた手続き上の不備があるとし、さらに本質的な問題として、「iPhoneとWatchが一体となって

機能する以上、システム全体として特許を侵害していることに変わりはない」と主張しました¹。

2025年11月15日、地方裁判所での勝訴と時を同じくして、ITCはMasimoの申し立てに基づき、この「再設計された」Apple Watchが本当に排除命令の対象外であるかを判断するための新たな執行手続き(Enforcement Proceeding)を開始しました²⁰。この調査は2026年4月までに結論が出ると予想されています¹。もしITCが「iPhoneへのオフロード処理も依然として侵害の一部である」と判断すれば、Appleは再び販売停止の危機に直面するか、あるいは血中酸素機能を完全に削除する(2024年初頭のように)という苦渋の決断を迫られることになります。

5. Masimoの企業統治と戦略的転換

この長期間にわたる法廷闘争の裏で、Masimo自身の企業構造にも劇的な変化が生じています。これは今後のAppleとの和解交渉や訴訟戦略を占う上で極めて重要な要素です。

5.1 創業者Joe Kianiの「聖戦」と退場

Masimoの創業者であるJoe Kiani氏は、技術者としての誇りと、巨大企業による知的財産の軽視に対する義憤から、Appleとの戦いを個人的な「聖戦」と捉えていました¹⁴。彼は「Appleが我々の技術を盗んだだけでなく、我々の従業員を引き抜き、我々の市場を破壊しようとしている」と公言し、和解よりも正義の追求を優先する姿勢を見せていました。Kiani氏は、自身のW1ウォッチやFreedomウォッチといった消費者向け製品ラインを展開し、ITCでの「国内産業要件(Domestic Industry Requirement)」を満たすための布石を打つなど、周到な戦略を展開してきました¹³。

しかし、この好戦的な姿勢と、消費者向けオーディオブランド(Sound United)の買収などの多角化戦略は、株主からの反発を招きました。アクティビスト投資家であるPolitan Capital Managementは、Kiani氏の「規律なき支出」と「本業である病院向けビジネスからの逸脱」を厳しく批判し、委任状争奪戦(プロキシファイト)を仕掛けました²⁴。

2024年9月、株主総会での投票の結果、Kiani氏は取締役会の議長職を追われ、その後CEOを辞任しました²⁶。これは、Masimoが「創業者の情熱」から「株主資本主義的な合理性」へと舵を切った瞬間でした。

5.2 新CEO Katie Szymanのプラグマティズム

2025年、Masimoの新しいCEOとしてKatie Szyman氏が就任しました²⁸。Szyman氏は、Edwards LifesciencesやBecton Dickinson (BD) といった伝統的な大手医療機器メーカーでの豊富な経験を持つ経営者です。彼女のバックグラウンドは、革新的ながらも独断的なKiani氏とは対照的に、組織的かつ合理的な経営スタイルを示唆しています。

Szyman体制下でのMasimoは、Appleとの訴訟を「感情的な戦い」から「資産のマネタイズ手段」へと再定義しています。今回の6億3,400万ドルの評決に対するMasimoの声明が「イノベーションと知的財産を保護するための重要な勝利」という標準的な企業の言葉遣いに留まっていることから⁴、新経営陣がこの勝利を冷静にビジネス上のレバレッジとして活用しようとしていることが伺えます。Szyman氏にとって、Appleからの巨額の賠償金や将来的なライセンス料は、Politanが求めていた「株主価値の向上」を実現するための最適なツールであり、Kiani氏時代のような「是が非でも販売を差し止める」という強硬姿勢からは、条件次第での和解へと柔軟化する可能性があります。

6. 市場と業界への波及効果

6.1 株式市場の反応と投資家心理

評決後の市場の反応は、両社の立場の非対称性を浮き彫りにしました。

- **Apple (AAPL):** 株価への影響は軽微でした³⁰。Appleにとって980億円という金額は、数日分のフリーキャッシュフローに過ぎず、経営の屋台骨を揺るがすものではありません。投資家は、この賠償金そのものよりも、将来的な機能制限やブランドイメージへの影響を懸念していますが、現時点では織り込み済みと判断されています。
- **Masimo (MASI):** 株価は上昇傾向を示しました²⁷。Masimoにとってこの金額は年間収益のかなりの部分に相当するだけでなく、同社のIPポートフォリオの法的な強さが証明されたことによる資産価値の再評価を意味します。特に、経営陣交代後の不安定な時期において、この「遺産」とも言える訴訟での勝利は、新体制の滑り出しを支える強力な材料となりました。

6.2 ウェアラブルエコシステムへの警告

この判決は、Samsung、Google (Fitbit/Pixel)、Garminといった他のウェアラブルプレイヤーにとっ

て、無視できない警告音となります。

- **ライセンス交渉の加速:** Appleほどの資金力と法務力を持つ企業でさえMasimoの特許を無効化できず、侵害認定を受けたという事実は、他社にとって恐怖です。これまで「Appleが戦っているから」と静観していた競合他社は、Masimoからのライセンス要求に対して、より真剣かつ早期に応じる必要性に迫られるでしょう⁷。
- **Garminの特異性:** Garminは以前から高度なヘルスマニタリング機能を提供していますが、Masimoとの間で公になっていないクロスライセンス契約が存在するのか、あるいはMasimoの特許を回避する全く異なる技術実装を持っているのかについては、業界内でも議論があります³³。しかし、MasimoがAppleという最大の標的を仕留めた今、次は市場シェア2位以下のプレイヤーに対して「強制捜査」的な特許行使を行う可能性は十分にあります。
- **「医療機器」化のリスク:** 陪審団がApple Watchを「患者モニター」と認定したことは、マーケティング戦略に再考を迫ります。「命を救う」「異常を検知する」といった強力なマーケティングメッセージは、同時に「医療機器特許の侵害」という法的リスクを引き寄せる磁石となることが証明されたからです。

6.3 グローバル市場の分断：日本市場への影響

重要な点として、今回の評決およびITCの命令は、あくまで米国内の司法権の及ぶ範囲に限られます。

- **日本およびその他の地域:** 日本国内で販売されているApple Watch Series 9、Series 10、Ultra 2については、血中酸素ウェルネス機能は制限なく利用可能です³。ハードウェア自体に変更はないため、日本で購入したデバイスは、iPhoneへのオフロードといった複雑な手順なしに、従来通り手首だけで測定が完結します。
- **グレーマーケットの発生:** この機能差は、並行輸入や越境ECにおける「米国版以外のApple Watch」の需要を高める可能性があります。米国ユーザーにとっては、正規ルートで購入する製品が機能制限版（パーツ番号末尾がLW/Aのもの³⁷）であるという不満が蓄積し、ブランドロイヤリティへの長期的なダメージとなり得ます。

7. 将来展望：2026年に向けたシナリオ

7.1 控訴審の行方

Appleは当然ながら控訴を表明しています³。控訴審での争点は、地裁レベルでの事実認定(侵害の有無)よりも、法的な解釈論、特に「期限切れ特許に対する損害賠償の妥当性」や「患者モニターのクレーム解釈の誤り」に集中すると予想されます。連邦巡回区控訴裁判所(CAFC)は特許案件に特化した裁判所であり、地裁の陪審員による感情的な判断(医療ベンチャー vs 巨大テック)を排し、より厳密な技術的・法的判断を下す傾向があります。しかし、最終的な判決が出るまでにはさらに18～24ヶ月を要するため、2027年頃までは法的な不安定状態が続きます。

7.2 ITCの最終決断と和解の可能性

より差し迫ったマイルストーンは、2026年4月に予定されるITCの調査結果です¹。もしここでAppleの「iPhoneオフロード回避策」が否定されれば、Appleは米国市場で血中酸素機能を完全に封印せざるを得なくなります。

この「完全封印」のリスクは、Appleを和解のテーブルに着かせる最大の圧力となります。Kiani氏の退任により、Masimo側には「面目」よりも「実利」を取る土壌が整いました。想定される着地点としては、Appleが過去の侵害に対する解決金(今回の6億ドルプラスアルファ)と、将来のライセンス料を含めた包括的な和解金を支払う形での決着です。Appleはこれまでも、QualcommやNokiaとの紛争において、徹底抗戦の末に土壇場で和解し、巨額の支払いでビジネスの継続性を買った前例があります。

7.3 「ステルス医療機器」時代の終焉

本件は、テック企業が「医療機器ではない」と言い張りながら医療技術の果実を享受できた時代の終わりを告げています。今後、GoogleのPixel WatchやSamsungのGalaxy Watchを含む全てのウェアラブルデバイスは、開発段階からFTO(Freedom to Operate: 特許侵害調査)を医療機器レベルの厳密さで行うことが求められます。

8. 結論

Masimo対Appleの6億3,400万ドルの評決は、単なる金銭の問題ではありません。それは、シリコンバレーの「動きながら壊せ(Move fast and break things)」という文化が、人命に関わる医療技術の厳格な特許網と衝突した際の、極めて高価な授業料と言えます。

Apple Watchの血中酸素機能は、技術的にはMasimoの発明の上に成り立っていると司法は判断しました。そして、その技術が「古い」ものであっても、特許権者の権利は守られるべきであるという原則が再確認されました。新CEO Katie Szyman氏の下、Masimoはこの勝利をテコに、ウェアラブル市場全体に対する「ゲートキーパー」としての地位を確立しようとしています。

消費者にとって、これは短期的には機能の制限や不便さを意味するかもしれませんが。しかし長期的には、テック企業が医療技術に対して正当な対価を払い、より信頼性の高い、真の意味での「ヘルスケア・パートナー」としてのデバイスを生み出すための健全なプレッシャーとなるでしょう。2026年のITC決定に向け、この法廷劇はクライマックスを迎えようとしています。

引用文献

1. Apple faces fresh ITC investigation over Apple Watch blood oxygen feature - Times of India, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/apple-faces-fresh-itc-investigation-over-apple-watch-blood-oxygen-feature/articleshow/125368105.cms>
2. Apple ordered to pay \$634 million to Masimo in Apple Watch patent dispute, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/apple-ordered-to-pay-634-million-to-masimo-in-apple-watch-patent-dispute/articleshow/125359256.cms>
3. Apple Hit With \$634 Million Verdict in Apple Watch Blood Oxygen Patent Lawsuit, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.macrumors.com/2025/11/15/apple-634-million-verdict-masimo-lawsuit/>
4. Masimo Issues Statement on California Jury Verdict Finding Patent Infringement by Apple and Awarding Masimo \$634 Million in Damages, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://investor.masimo.com/news/news-details/2025/Masimo-Issues-Statement-on-California-Jury-Verdict-Finding-Patent-Infringement-by-Apple-and-Awarding-Masimo-634-Million-in-Damages/default.aspx>
5. Masimo wins \$634 million verdict against Apple in high-stakes patent fight over Apple Watch, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.dailyjournal.com/articles/388571-masimo-wins-634-million-verdict-against-apple-in-high-stakes-patent-fight-over-apple-watch>
6. Apple hit with \$634 million verdict in Apple Watch patent fight with Masimo - 9to5Mac, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://9to5mac.com/2025/11/15/apple-hit-with-634-million-verdict-in-apple-watch-patent-fight-with-masimo/>
7. Masimo wins \$634 million verdict against Apple in high-stakes patent fight over Apple Watch - Reddit, 11月 17, 2025にアクセス、
https://www.reddit.com/r/apple/comments/1oxvxdz/masimo_wins_634_million_verdict_against_apple_in/
8. Apple ordered to pay Masimo hundreds of millions of dollars in patent infringement case, 11月 17, 2025にアクセス、

- https://www.phonearena.com/news/apple-ordered-to-pay-masimo-hundreds-of-millions-of-dollars_id175766
9. Apple Ordered to Pay Masimo \$634 Million in Apple Watch Patent Dispute, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.gadgets360.com/wearables/news/apple-watch-masimo-blood-oxygen-patent-trial-penalty-verdict-9648674>
 10. Can You Enforce an Expired Patent? - Copperpod IP, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.copperpodip.com/post/can-you-enforce-an-expired-patent>
 11. FAQ: Expired Patents, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://generalpatent.com/articles/faq-expired-patents.html>
 12. Masimo awarded \$634M in Apple Watch patent infringement verdict - AppleInsider, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://appleinsider.com/articles/25/11/15/masimo-awarded-634m-in-apple-watch-patent-infringement-verdict>
 13. Apple v. Masimo: the clash over pulse oximetry patents, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://patentlawyermagazine.com/apple-v-masimo-the-clash-over-pulse-oximetry-patents/>
 14. Joe Kiani, Masimo CEO, Talks About Legal Win Over Apple's Violation on Medical Tech Patent Rights - YouTube, 11月 17, 2025にアクセス、
https://www.youtube.com/watch?v=Cwu9_Dx73o0
 15. Apple ordered to pay medtech Masimo \$634m for patent infringement, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.siliconrepublic.com/business/apple-masimo-634m-patent-infringement-us-jury-california-2025>
 16. Apple loses big patent battle, ordered to pay over ₹5620 crore to this company | Technology News, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.hindustantimes.com/technology/apple-loses-big-patent-battle-ordered-to-pay-over-rs-5620-crore-to-this-company-101763355617787.html>
 17. Certain Light-Based Physiological Measurement Devices and Components Thereof - International Trade Commission, 11月 17, 2025にアクセス、
https://www.usitc.gov/system/files?file=secretary/fed_reg_notices/337/337_1276_notice10262023sgl.pdf
 18. Analyzing the ITC's impending import ban on Apple watches | Sterne Kessler, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.sterneessler.com/news-insights/insights/analyzing-the-itcs-impending-import-ban-on-apple-watches/>
 19. Apple pauses US sales of two watch models over patent dispute - The Guardian, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.theguardian.com/technology/2023/dec/18/apple-watch-sales-pause-patent-dispute>
 20. Redesigned Apple Watch Blood Oxygen feature faces new ITC scrutiny - 9to5Mac, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://9to5mac.com/2025/11/14/redesigned-apple-watch-blood-oxygen-feature-faces-new-itc-scrutiny/>
 21. Apple Watch Blood Oxygen Feature Faces New ITC Ban Risk, 11月 17, 2025にアクセス

- ス、
<https://apple.gadgethacks.com/news/apple-watch-blood-oxygen-feature-faces-new-itc-ban-risk/>
22. US trade tribunal to consider new Apple Watch import ban By Reuters - Investing.com, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.investing.com/news/stock-market-news/us-trade-tribunal-to-consider-new-apple-watch-import-ban-4360021>
 23. 'I think we're the first company to ever win.' – Masimo Health's Joe Kiani on suing Apple, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://about.websummit.com/summary-service/i-think-were-the-first-company-to-ever-win-masimo-healths-joe-kiani-on-suing-apple/>
 24. Masimo pushes back against activist investor it argues will cause 'dysfunction and chaos', 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.medtechdive.com/news/masimo-activist-investor-proxy-battle-MAS-I-Politan/651741/>
 25. Masimo Reports 4th Quarter & Full Year 2024 Results and Investors Like It - Strata-gee.com, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.strata-gee.com/masimo-reports-4th-quarter-full-year-2024-results-and-investors-like-it/>
 26. Masimo CEO Joe Kiani resigns amid legal dispute with Apple - 9to5Mac, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://9to5mac.com/2024/09/25/masimo-ceo-resigns-apple/>
 27. Retrial Begins for Masimo, Apple - Orange County Business Journal, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.ocbj.com/oc-homepage/retrial-begins-for-masimo-apple/>
 28. Masimo Announces Leadership Transition, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://investor.masimo.com/news/news-details/2025/Masimo-Announces-Leadership-Transition/default.aspx>
 29. Masimo picks Katie Szyman as CEO - MedTech Dive, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.medtechdive.com/news/Masimo-new-CEO-Katie-Szyman/737973/>
 30. Apple Inc. Common Stock (AAPL) Historical Quotes - Nasdaq, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.nasdaq.com/market-activity/stocks/aapl/historical>
 31. Apple Stock Price History - Investing.com, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.investing.com/equities/apple-computer-inc-historical-data>
 32. Masimo Stock Price History - Investing.com, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.investing.com/equities/masimo-corp-historical-data>
 33. Apple To Halt Sales of Apple Watch Ultra 2 & Series 9: Explained - DC Rainmaker, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.dcrainmaker.com/2023/12/apple-sales-series.html>
 34. U.S. judge rules Apple Watch infringed Masimo's pulse oximeter patent | Hacker News, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://news.ycombinator.com/item?id=34360292>
 35. watchOS 26 - Feature Availability - Apple, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://www.apple.com/watchos/feature-availability/>
 36. Apple Watch Differences for those sold in Japan vs. the US, 11月 17, 2025にアクセス、
<https://discussions.apple.com/thread/255831944>
 37. How to Check If the Apple Watch You're Buying Has the Blood Oxygen Feature, 11

月 17, 2025にアクセス、

<https://www.idropnews.com/how-to/how-to-check-if-the-apple-watch-youre-buying-has-the-blood-oxygen-feature/206189/>